

基本目標5 「環境力」の高い人材の育成

1 板橋区の現状

■ 人材育成に関わる環境講座参加者数

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和元年度	(参考)		進捗率	進捗度
					達成率	達成度		
人材育成に関わる環境講座参加者数	199 人	↗	400 人	451 人	112.8%	A A	100% 以上	順調

この指標は、区が行っている人材育成に関わる環境講座等の参加者数を集計したものと
なります。

「順調」に数値を伸ばし、2025（令和7）
年度の目標値を達成しました。保育士及び教
員を対象にした環境教育研修、指導者養成講

座（板橋エコみらい塾※）の受講者が順調に
伸びています。また、2019（令和元）年度
は、さらに、あいキッズ事業者へも学習機会
を提供したことにより、実績値が増加しまし
た。

※ 板橋エコみらい塾:エコポリスセンターの指導者養成事業のうちの一つで、受講した方が学びを提供する側になるために、実践に役立つ方法論を体験的に学ぶことができます。

■ 外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和元年度	(参考)		進捗率	進捗度
					達成率	達成度		
外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合	76.1 %	↗	100 %	64.3 %	64.3%	C	0%未満	停滞

この指標は、外部人材を活用して環境学習
を実施している区立小中学校及び区立保育園
・幼稚園の割合となります。

2017（平成29）年度から進捗が鈍く「停
滞」となっています。2019（令和元）年度
の実績は、保育園36.1%（13園）、幼稚園
0%（0園）、小学校96.2%（50校）、中学
校40.9%（9校）となっています。実績値が
伸び悩んでいる要因として、保育園・幼稚園

におけるエコポリスセンターの出前講座の活
用率が低いことが挙げられます。エコポリス
センターの出前講座の周知方法や内容の見直
しを行い、より活用してもらえるよう努めて
いきます。さらに、小中学校の教育課程内だ
けでなく、児童館やあいキッズ等の新たな主
体への活用促進にも力を注いでいけるよう、
教育委員会や子ども家庭部とも連携を深めて
いきます。

■ 環境教育プログラム利用校（園）の割合

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和元年度	(参考)		進捗率	進捗度
					達成率	達成度		
環境教育プログラム利用校（園）の割合	74.4 %	↗	100 %	79.5 %	79.5%	B	19.9%	漸進

この指標は、板橋区環境教育ハンドブック
に掲載の環境教育プログラム（関連P79）を
実践している（参考にしている場合も含む）

区立小中学校及び区立保育園・幼稚園の割合
となります。

基準年値は上回ったものの2018（平成30）

年度の実績値（82.5%）から低下し、「漸進」となっています。2019（令和元）年度の実績は、保育園69.4%（25園）、幼稚園100%（2園）、小学校86.5%（45校）、中学校77.3%（17校）となっています。環境教育プログラムの活用が伸び悩んでいますが、

区立の保育園・幼稚園・小中学校における環境教育は板橋区環境教育カリキュラムに基づき、毎年着実に実施しているものです。今後は、カリキュラムと各プログラムを関連づけるなど、より多くの授業で活用してもらえようように改善を行っていく予定です。

■ エコ生活（エコアクション9）の実施状況

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和元年度	（参考）		進捗率	進捗度
					達成率	達成度		
エコ生活（エコアクション9） の実施状況	75.0 %	↗	100 %	81.3 %	81.3%	B	25.2%	漸進

この指標は、地球温暖化防止のために暮らしの中でできる9つの行動（エコアクション9）の実施率で、イベント等の来場者アンケートから集計したものととなります。

基準年値こそ上回っているものの2018（平成30）年度の実績値（81.7%）とほぼ横ばいとなり、「漸進」にとどまっています。

「エコアクション9」については、2019（令和元）年4月に、使い捨てプラスチック削減を呼びかける項目を取り入れるなど、現在の環境問題に即した内容に見直しを行いました。引き続き、イベント等又はホームページやSNSを活用し、普及啓発を図っていく予定です。

エコアクション9

区が実施している普及啓発事業の一つで、地球温暖化防止のために暮らしの中でできる9つの行動です。積極的に実践しましょう！

- ① 冷暖房は適切に使っている（室内温度目安：夏28℃、冬20℃）
- ② テレビを見ていないときは消している
- ③ 照明はこまめに消し、買い替え時にはLEDランプを選んでいる
- ④ 冷蔵庫の温度は適切に設定し、開けている時間を短くしている
- ⑤ 調理の火力をこまめに調節している
- ⑥ シャワーのお湯はこまめに止めている
- ⑦ お風呂はできるだけ間をあけずに入浴している
- ⑧ できるだけ公共交通機関・自転車・徒歩で移動し、車を運転するときは燃費の良い運転を心がけている
- ⑨ マイボトル・エコバッグを使っている

2 環境施策の活動状況

(1) 環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成



エコポリスセンター

エコポリスセンターは、人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現をめざし、環境教育・環境学習の推進、環境情報の発信、環境活動の拠点施設として、1995(平成7)年4月に開設されました。年間を通して、様々な展示やイベントを実施するほか、夏には緑のカーテンを育成し、区内屈指の緑のカーテンを間近に鑑賞できる機会を提供しています。

また、エコポリスセンターは、環境について「知る・気づく」→「考える・学ぶ」→「行動する」→「交流する・育てる」という自然なステップアップが図れるよう施設展示

や事業を展開しています。この学びのサイクルの実践として、環境イベント・環境啓発事業、環境学習事業、指導者養成事業、個人・団体・企業の育成・支援事業といった各世代・各段階の学びのレベルに合った形態・内容の事業を企画し、区内の環境教育の推進を図っています。

今後も地域と密着した環境教育の拠点施設として、区民や事業者、団体などと連携を図り、良好なパートナーシップを築いていくための活動に取り組んでいきます。



■ エコポリスセンター



◀緑のカーテン

関連するホームページ
(エコポリスセンター)

<https://itbs-ecopo.jp/>

関連する活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成30年度	実績値 令和元年度	進捗度
環境講座・教室開催回数※1	677 回	↗	597 回	579 回	後退
環境講座参加者数(人材育成に関わる講座を除く)※2	22,898 人	↗	22,751 人	20,316人	後退
環境学習講師派遣人数※3	363 人	↗	222 人	290 人	後退
環境学習施設の入館者数※4	270,195 人	↗	302,074 人	315,947 人	進展
環境講座受講前後の知識・考え方の変化※5	63 %※6	↗	67.4 %	77.1 %	進展

※1 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の開催回数を集計したもの
 ※2 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境に関する講座等の参加者数を集計したもの
 ※3 区内の保育園や小中学校等における環境学習の出前講座を行う際にエコポリスセンターから派遣される指導者等の人数
 ※4 エコポリスセンター、熱帯環境植物館、リサイクルプラザの入館者数を合計したもの
 ※5 エコポリスセンターの環境講座等を受講した前後で、「環境」についての知識や考え方に変化があった者の割合で、講座等の受講者アンケートから集計したもの
 ※6 平成28年度値

今後の対策

「環境講座・教室開催回数」及び「環境講座参加者数(人材育成に関わる講座を除く)」:新型コロナウイルス感染症や台風接近などで、十数回中止となったことが減少の要因と考えられます。今後は、リモートでの講座・教室の開催、ホームページやSNSを活用した情報提供を積極的に行い、コロナ禍でも環境教育を推進できるよう、事業展開を図っていきます。

「環境学習講師派遣人数」:進捗率は基準を満たしていませんでしたが、前年度より増加しています。講師派遣件数も増加(64→74)しているため、多くの主体に講師を提供できました。今後も、指導者養成講座等を実施し、エコポリスセンターの出前講座を担える人材の育成に努めます。

学校における環境教育

① 板橋区環境教育プログラム

幼児から大人を対象にした環境学習のためのプログラムです。環境学習の知識や経験の少ない指導者でもすぐに利用できるような、具体的で活用しやすいプログラムを掲載しています。児童館、保育園、幼稚園、小中学校、あいキッズなど各主体で活用されています。作成にあたっては、各主体の区職員や教員等が参加する環境教育プログラム部会において検討が行われ、環境教育の現場に則した内容になるよう配慮しています。

プログラムはインターネットで公開し、どなたでも使用することができます。学習シートや参考資料などもダウンロード可能です。



■環境教育プログラム (ホームページ画面)

例：オリジナルMY図鑑を作ろう

(自分だけの“木の葉の図鑑”を作るプログラム：小学生対象)

◀プログラムの概要

▼ワークシート (例)

項目	内容
ねらい	校庭の樹木の葉の図鑑作りを通して、身近な自然とともに自然に親しみ楽しさを味わう。
キーワード	身近な自然
対象	小学生全学年
時間	60分
実施場所	校庭及び教室
使用するもの	A: 図鑑式(軸の両側についた葉を両面に押し付けて形をとる。) 図鑑作り用用紙、水彩色筆、フレキシブルペン、ヤシ紙(軸の両側につけるときの下敷き用) B: フロッピーシート(葉の上に敷いた紙を色鉛筆などで塗って形をとる。) 図鑑作り用用紙、色鉛筆 C: スタンプ式(スタンプ用インクやカラーボールなどで色を付けて葉の形をとる。) 図鑑作り用用紙、スタンプ用インクやカラーボールなどのスタンプ台 ※A/B/Cのいずれかの、製本テープ(ビニールテープや糊などでも可) (準備されない児童がいることを想定し、葉っぱはある程度採集しておく。) (校庭の樹形が少量の時は、別の場所でも採集した葉などで代用方法もある。)
全体の流れ	1. 導入 事前に作成した見本を見せて、今日の活動について説明する。 2. 製本 紙を6～8ページ程度の実に仕立てる。日の場合はフロッピーシートに葉っぱを挟む所だけ作る。 3. 葉を採集 校庭で、採集している葉っぱを採集する。 (学級の児童が採集して取っていく方法もある。) 採った葉っぱの場所や採集した理由などエピソードもメモさせておくのもよい。 4. 図鑑作り A. 図鑑式の方法で葉っぱの両側に軸をつき、両面に葉っぱの図鑑を作る。紙の下の葉っぱが動かかないように留めて、色鉛筆で塗る。 C. 図鑑式の方法で葉っぱの両側に軸をつき、両面に葉っぱの図鑑を作る。できた図鑑に製本テープで製本紙を貼って完成。 5. ふりかえりと片付け 完成したMY図鑑を見せあう。「MY図鑑大会！」などを行う。時間がなければ感想を発表し合うだけでもよい。

▶プログラムの進め方 (例)

関連するホームページ
(板橋区環境教育プログラム)

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kaikyoku/kyoiku/1015347/index.html>

② 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム

◆ 板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラムの概要

【保・幼・小・中で一貫したねらいをもって実施】

教育委員会では、2011（平成23）年4月に「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」を策定しました。これは、保幼小中一貫型のカリキュラムであることが大きな特徴です。板橋区の小中一貫教育カリキュラムである「板橋のi（あい）カリキュラム」としても位置付けられています。4歳児から中学校第9学年までの11年間を、子どもの発達段階に応じて三期に分け、それぞれの段階におけるねらいと、子どもたちが身に付ける資質・能力、態度を系統立てて示しています。これによって、就学前から小中学校で「持続可能な開発のための教育(ESD)」(※P98)の考え方に基づいた系統的な環境学習を実施することが可能になりました。

【カリキュラムの内容構想】

発達段階に合わせて、以下のとおり3つの段階を設けています。

(ア) 【FEEL】

環境を身近な問題として捉える感受性、共生や他者に対する思いやりの心を育成していく段階です。この段階で育む感受性や思いやりの心が、今後の問題解決を進めていく原動力になると考えます。

(イ) 【THINK】

問題解決の活動を通して、環境に対する見方や考え方を育成していく段階です。

(ウ) 【ACT】

これまで身に付けた力を生かし、身の回りの環境や、自らの生活改善に向けて主体的に働きかけていく実践力を育成する段階です。

【環境をとらえる視点について】

環境は様々な視点で捉えることができます

が、本カリキュラムでは「循環」「多様性」「生態系」「共生」「有限性」「保全環境」の、6つの視点を設定し、内容的に偏りがないようにしました。加えて、学習活動については、「身近な環境」から「全地球規模の環境」への視野の広がりや、「自らの生活を見直すこと」から「地域社会生活に自らが働きかけていくこと」へというように、発達段階に応じて、同じ視点で繰り返し学べる構成にしました。

小学校は2020（令和2）年度、中学校は2021（令和3）年度に新学習指導要領が全面実施されます。

新学習指導要領の内容と、板橋区全体で取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）の視点も取り入れ、2019（平成31）年4月に改訂を行いました。



◆ 板橋区環境教育テキスト 「未来へ」の概要



板橋区環境教育カリキュラムに基づく学習活動を各学校で効果的に実施するため、教育委員会事務局指導室では、2008（平成20）年度に小学校第3学年・第4学年向け「未来へ1」と小学校第5学年・第6学年・中学校第7学年向け「未来へ2」、2009（平成21）年度に中学校第8学年・第9学年向け「未来へ3」の3冊を作成しました。

自然や文化、産業も含めた身の回りの全てを環境と捉え、その「多様性」に気付き、自分の生活との「つながり・かかわり」についての理解を進め、その上で自らが環境に働きかける実践力を育成していけるような内容になっています。テキストは、区内小中学校全児童・生徒に配付しています。

さらに、教師用指導書も作成し、「未来へ1・2」「未来へ2・3」をそれぞれ一冊にまとめ、教員が内容面での見通しをもって指導できるようにしています。

「未来へ」は、その時々ので社会の要請に応じて改訂を重ねてきました。2015（平成27）年の改訂では、より郷土板橋の特色を感じさせる内容にし、柔軟に内容を選択できるようにしました。また、2019（平成31）年4月の改訂では、SDGsの視点から内容を見直しました。

板橋区の子どもたちがこのテキストを活用し、ESDの考え方に基いた授業を通して学び、SDGsの達成に向けて、知恵と実践力を身に付けてくれることを願っています。

◆ 区立小中学校での実践

(ア) 校庭の自然を生かした環境教育の 取り組み



区内の小中学校では、ビオトープ（※P97）や芝生など、校庭の自然を生かした環境教育の学習に取り組んでいるところもあります。

総合的な学習の時間では、ビオトープと人との関わりの視点で、環境保全の大切さと持続可能性について、子どもたち一人ひとりが考えを深める学習をしています。

日常のビオトープや芝生の管理は、学校支援地域本部やあいキッズと連携し、環境ビオトープ委員会の子どもたちを中心に行っています。校庭の気温とビオトープの水温を測って記録したり、芝刈りや雑草取り、ビオトープに生息する生き物を紹介する掲示物を作成したりしています。

また、年に1回、環境保全に携わる地域コーディネーターの方にインタビューをして作成した動画を、児童朝会で紹介しています。

こうした活動を通して、持続可能な社会づくりの担い手となるための力を育てています。

(イ) ユネスコスクール、子ども環境大使の取組



■ 令和2年度 動画によるWEB任命の様子

ユネスコスクールとは、ユネスコの理念を実現するための実践を行う学校で、世界中の

学校との交流を通じて情報や体験を分かち合うこと、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展をめざすことを目的として活動を行います。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクールをESDの推進拠点として位置付けています。

板橋区では、2020(令和2年)年10月現在、板橋第二小学校、板橋第七小学校の2校が加盟校として、蓮根第二小学校、緑小学校、桜川小学校、西台中学校、高島第一中学校の5校が申請校として、ESDの考え方を取り入れ

た環境教育を推進しています。加盟校及び申請校の子どもたちは、エコポリスセンターから「子ども環境大使」として任命(※2020(令和2)年度は、動画によるWEB任命)され、各校の特色を生かした取り組みを行い、ESDを推進します。

2019(令和元)年度は、板橋第二小学校、板橋第七小学校、蓮根第二小学校、緑小学校、西台中学校、高島第一中学校の6校が、子ども環境大使としての取り組み内容を紙面にまとめて、エコポリスセンターで展示しました。

(2) わかりやすい環境情報の発信



環境情報の発信

エコポリスセンターでは、環境への「興味・関心」を深めるため、様々な媒体を用いて、環境に関する情報を提供しています。紙媒体のほかにホームページ・SNS(ツイッター・フェイスブック・インスタグラム)なども用いて、多くの方の目にとまるよう、幅広く発信しています。

関連する活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成30年度	実績値 令和元年度	進捗度
区から発信する環境情報の更新回数※	356件	↗	1,493件	965件	進展

※ エコポリスセンターの公式ホームページ、ツイッター、フェイスブック・インスタグラムの情報を更新した回数の合計を集計したもの。



■エコポリスセンターフェイスブック



■エコポリスセンターホームページ(アドレスはP78参照)

環境イベントの開催

環境への「興味・関心」を深め、「参加・体験」していただく機会として、様々な環境関連のイベントを開催しています。環境保全活動の実践につなげるため、「環境なんでも見本市」や「エコライフフェア」などを実施し、意識啓発を行っています。



▲▶環境なんでも見本市



関連する活動指標

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成30年度	実績値 令和元年度	進捗度
環境イベント等開催回数※1	244 回	↗	222 回	199 回	後退
環境イベント等参加者数※2	96,949 人	↗	44,178 人	44,877 人	後退

※1 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境イベント等の開催回数を集計したもの。

※2 エコポリスセンターをはじめ、区が行っている環境イベント等の参加者数を集計したもの。

今後の対策：両指標とも、新型コロナウイルス感染症や台風接近などで、二十数回中止となったことが減少の要因と考えられます。今後は、リモートでのイベントの開催、ホームページやSNSを活用した情報提供を積極的に行い、コロナ禍でも環境教育を推進できるよう、事業展開を図っていきます。

3 関連計画

板橋区環境教育推進プラン2025

① 策定

持続可能な社会の構築に向けて、環境教育を計画的かつ効果的に進めるため、2007（平成19）年2月に「環境教育推進プラン」を策定しました。その後、法律の一部改正を踏まえ、さらに連携・協働して進めていくことをめざし、2016（平成28）年3月に「環境教育推進プラン2025」を策定しました。

② 位置づけ

環境教育等促進法に基づいた計画です。また「板橋区環境基本計画2025」の基本目標5『「環境力」の高い人材の育成』と基本目標6「パートナーシップが支えるまちの実現」を具体的に示した計画でもあります。

③ 期間

2016（平成28）～2025（令和7）年度までの10年間

④ 対象範囲

区民、区民団体、事業者、学校等、区（以下、各主体といいます。）

※家庭、学校、職場、地域その他あらゆる場において、環境の保全に関する教育・学習、環境への関心を深めるための啓発、協働取り組みを含めて「環境教育」として捉えています。

⑤ 環境教育の基本指針

- ESDの視点を取り入れた環境教育の推進
- 持続可能な社会の実現を担う人の育成
- 各主体による環境教育の実践

⑥ 環境教育の推進に向けた取り組み

- ・世代に応じた環境教育

各主体が、家庭や学校等、職場、地域で環境教育を実施する際に、見据えておくべき「世代に応じた環境教育のねらい」を示しています。

- ・各主体に期待される役割

主体ごとに、「期待される役割」を示しています。

- ・環境教育を進める学びの機会の提供

環境教育を進めるために、「興味・関心」→「参加・体験」→「理解・実践」へと展開する一連の学びの機会を示しています。

- ・環境教育の推進のための基盤となる施策

基盤となる施策における取り組みと具体的な事業を示しています。

- ・学校等における環境教育の充実

学校等における環境教育や家庭・地域と連携した環境教育の推進・展開等を示しています。

- ・協働取り組みの促進

協働取り組みを促進するための施策や地域での環境教育の取り組みモデルを示しています。

⑦ 重点施策

- ・エコポリスセンターの拠点機能の活性化
- ・環境教育・環境取組の参加機会についての情報のスマート化
- ・環境教育推進協議会の役割の活性化
- ・地域環境コミュニティの形成の促進
- ・板橋区の環境教育・協働取り組みの実践情報のスマート化（魅力発信等）

⑧ 成果指標

表2-5-1のとおり10項目の指標を設定し、環境教育の進捗状況を測るものさしとして使用しています。また、各指標における2019（令和元）年度の実績値は表中の各参照ページをご参照ください。

表2-5-1 板橋区環境教育推進プラン2025の成果指標

	板橋区環境教育推進プラン2025の成果指標	2019（令和元）年度実績	参照ページ
1	全区民参加型環境保全キャンペーン参加者数	25,495人	P85
2	環境講座参加者数	20,316人	P78
3	環境教育プログラム利用校（園）の割合	79.5%	P76
4	人材育成に関わる環境講座参加者数	451人	P76
5	環境学習講師派遣人数	290人	P86
6	環境登録団体数	36団体	P86
7	エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数	1,064人	P85
8	外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合	64.3%	P76
9	エコ生活（エコアクション9）の実施状況	81.3%	P77
10	環境講座受講後の知識・考え方の変化があった者の割合	77.1%	P78

関連するホームページ
（板橋区環境教育推進プラン2025の策定）

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kan-kyo/kyoiku/plan/1006002.html>